

Seminars and Workshop
Asia, Theatre and Education
連続セミナー＋ワークショップ
アジア・演劇・教育

2010

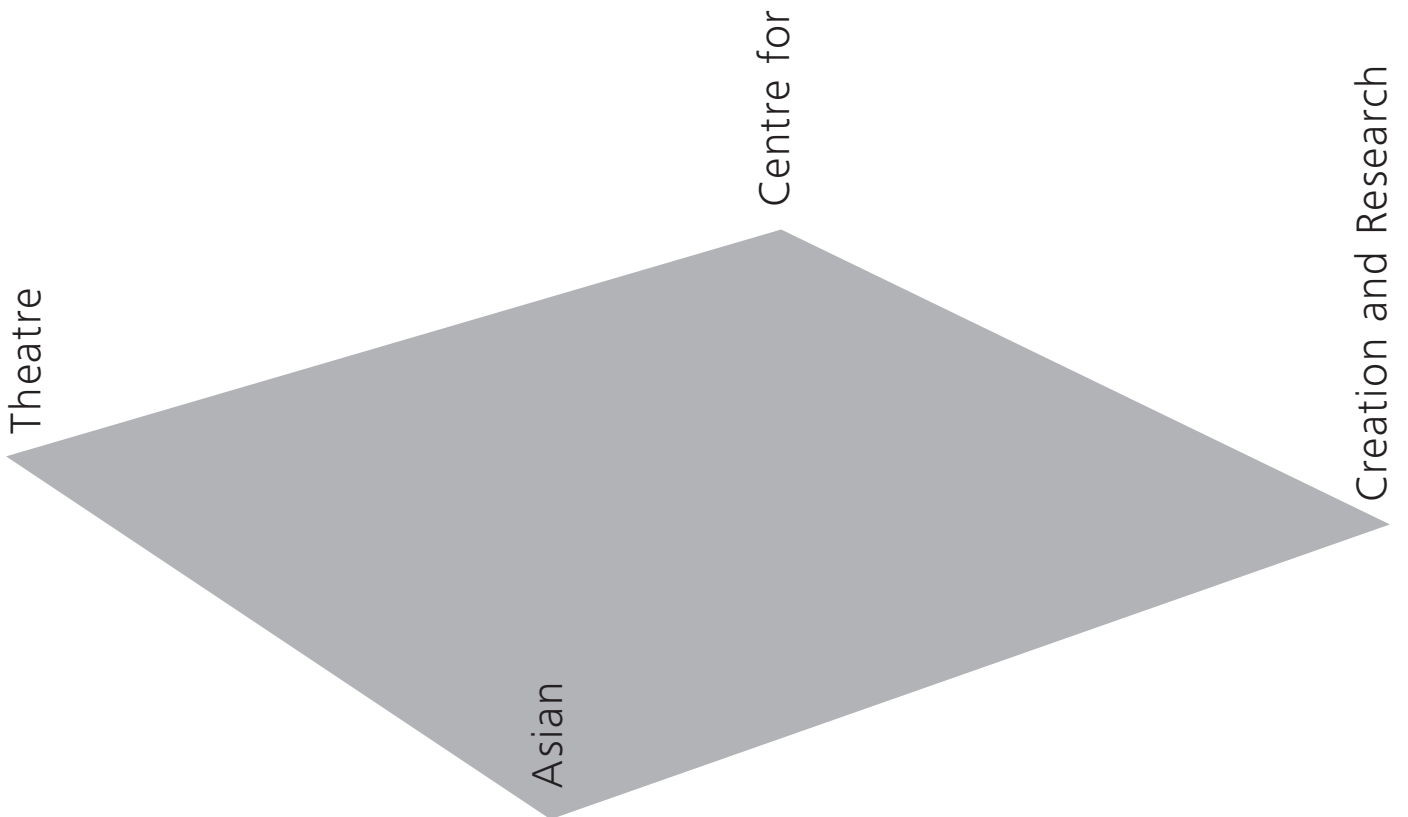
2.9 火 ……………

2.14 日

Asian Theatre Centre for
Creation and Research
アジア演劇創造研究センター
www.atccr.org

アジアの演劇と 教育演劇の 過去・現在・未来を考える

「早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点」の研究計画
「舞台芸術 創造とその環境 日本／世界」と
アジア演劇創造研究センターは共同して、
「アジアの演劇」の歴史やそこに見られる固有の価値観と方法について、
そして演劇の様々な力を社会的な領域へと応用していく
〈教育演劇〉の歴史と活動について、
セミナーとワークショップを通じて検証していきます。



主催……………早稲田大学演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点「舞台芸術 創造とその環境 日本／世界」、アジア演劇創造研究センター
企画……………アジア演劇創造研究センター 助成……………財団法人 セゾン文化財団 共催……………企業組合 演劇デザインギルド 会場……………森下スタジオ

過去・現在・未来を考える
教育演劇の
アジアの演劇と

参加費・申込方法

申込はE-mailのみで受け付けます。

メール送付先
entry@atccr.org

セミナー

各回とも聴講費は無料です。

聴講ご希望の方は、メールにて下記の項目①～⑤をご記入の上お申し込みください。

各回定員40名で先着順で申し込みを締め切ります。締め切り以降に申し込まれた方には、メールにてご連絡いたします。

ワークショップ

2日間全日程の参加が基本となります。

参加料は無料です。

参加の応募は、メールにて下記の項目①～⑦をご記入の上お申し込みください。

ワークショップは、見学のみ参加が出来ます。見学料は無料です。見学をご希望の方は、メールにて下記の項目①～⑤をご記入の上お申し込みください。

ワークショップの申込締め切りは、参加、見学とも2月3日です。参加の可否については2月6日までにメールにてご連絡いたします。

記入項目

- ①ご希望のレクチャーの日時(複数可)。またはワークショップの参加/見学希望の日時
- ②氏名 ③住所・電話 ④職業・所属 ⑤年齢
- ⑥ワークショップの経験の有無(※有る場合は、ワークショップの内容をご記入ください) ⑦参加の動機

お問い合わせ

アジア演劇創造研究センター

TEL 042-848-3642

E-MAIL info@atccr.org

・

早稲田大学演劇博物館
演劇映像学連携研究拠点

TEL 03-5286-8515

E-MAIL kyodo@enpaku.waseda.ac.jp

Seminar セミナー

2 / 9 [火]	18:30-18:50	〈教育演劇〉について 松井憲太郎
	19:00-21:00	イギリスにおける芸術教育の成り立ち クリッシー・ティラー, 近藤春菜 [モデレーター]
2 / 10 [水]	19:00-21:00	PACEのカリキュラム クリッシー・ティラー, 藤井慎太郎 [モデレーター]
2 / 11 [木・祝]	18:00-20:00	教育演劇の専門家育成の現状と展望 クリッシー・ティラー, 花崎攝, 松井憲太郎 [モデレーター]
2 / 12 [金]	18:30-18:50	〈アジアの演劇〉について 松井憲太郎
	19:00-21:00	PETAの創作活動の歴史と現在 ベン・サントス・カバンゴン/滝口健 [モデレーター]
2 / 13 [土]	14:00-16:00	PETAの民衆演劇の実践 ベン・サントス・カバンゴン/滝口健 [モデレーター]
2 / 14 [日]	14:00-17:00	アジアと教育の演劇についての総合ディスカッション ベン・サントス・カバンゴン, 藤井慎太郎, 松井憲太郎, 近藤春菜, 滝口健 [モデレーター]

Workshop ワークショップ

進行役: 演劇デザインギルド+アジア演劇創造研究センターのメンバー

2 / 10 [水]	10:30-17:00	フォーラム・シアター 1日目
2 / 11 [木・祝]	10:30-17:00	フォーラム・シアター 2日目

Seminar セミナー

アジアの演劇

フィリピン教育演劇協会 PETAの実践

1967年に設立されたフィリピン教育演劇協会PETAは、フィリピンで初めて英語やスペイン語ではなくタガログ語による劇作品の創作を行って、国民的な演劇の創造を目指すとともに、一方では演劇の教育的な機能を活用した民衆演劇運動を展開して、フィリピンはもとよりアジアの各地の文化運動に大きな影響を与えました。

今回のセミナーでは、PETAからベン・サントス=カバンゴン氏を招いて、アジアの現代演劇の源流のひとつであるPETAの演劇創造および民衆演劇の活動を取り上げて、創立から現在にいたる実践の意味や成果を考察するとともに、今後のPETAの活動ビジョンについて話を聞きます。

クリッシー・ティラー

Christie Tiller

劇作家、演出家、プラクティショナー。英国国立劇場教育部。ロンドン大学ゴールドスミス校大学院コースリーダー。ブリティッシュカウンシル、クリエイティブ・コラボレーションのためのコンサルタントリーダー。イギリスを拠点にコンサルタントとして国際的に活躍中。

ベン・サントス=カバンゴン

Beng Santos - Cabangon

PETAのエグゼクティブ・ディレクター。高校時代からPETAの活動へ参加し、数々の公演で俳優やスタッフを務め、また教育的なワークショップを実施した。またPETAが開催する様々なアートイベントやフェスティバル、会議などの運営を担っている。

花崎攝

Hanasaki Setsu

劇団黒テントを経て演劇ワークショップの企画、進行、及び俳優、演出として活動。インド

教育演劇

ロンドン・ゴールドスミス大学

PACEの実践

ロンドンのゴールドスミス大学のPACE(テヘロップメント・オブ・プロフェッショナル・アンド・コミュニティ・エデュケーション)は、演劇を中心にマルチメディアや美術など、様々な芸術分野の方法を取り入れたワークショップ・メソッドの実践者にむけたトレーニング・コースとして運営されています。

今回のセミナーではPACEのコースリーダーのクリッシー・ティラー氏を招いて、イギリスの〈教育演劇〉の歴史を振り返りながら、PACEで行われる専門教育のカリキュラムの内容と教育法、またどのような社会的な必要性によってPACEが作られたかについて話を聞いていきます。

ネシアのアチェで、紛争被害にあった子どもたちとのワークショップを進行中。「女/鬼 女たちのコラージュ」(コロンビア国際女性演劇祭招聘作品) 構成・演出・出演。企業組合演劇デザインギルド専務理事。

藤井慎太郎

Fujii Shintaro

早稲田大学文学学術院准教授、演劇博物館演劇映像学連携研究拠点テーマ研究代表者、演劇博物館グローバルCOE事業推進担当者。フランス語圏舞台芸術における創造とその環境について特に研究している。

以下、アジア演劇創造研究センター・メンバー

松井憲太郎

Matsui Kentaro

プロデューサー、演劇評論。世田谷パブリックシアターの開館から2008年までプログラム・ディレクターとして数多くの舞台作品を企画制作し、学芸活動を統括する。昨年からア

Workshop ワークショップ

ボアールのフォーラムシアター

南米で〈教育演劇〉の運動を開始して、いまや全世界に影響をおよぼす演劇理論家、教育演劇の実践家であったアウグスト・ボアール(1931生—2009没)のメソッドのひとつである「フォーラムシアター」のワークショップを行います。

2日間のワークショップのうち、1日目では、現実の出来事に材を得た演劇の小作品を作ります。2日目では、その小作品をもとに観客から出されるアイデアを反映させていくフォーラムシアター特有の方法論を模倣的に試みます。

このワークショップでは、フォーラムシアターの方法論を実践的に検証しながら、日本の状況のなかでそれがどのように機能するのか、またその応用法や将来的な展開などを考えていきます。

ジア演劇創造研究センターを立ち上げ、海外の演劇との共同制作やネットワークの立ち上げに取り組む。

近藤春菜

Kondo Haruna

俳優、演出家、プラクティショナー。国際劇団アユリテアトル日本代表。横浜桜陽高校非常勤講師。ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校演劇科修士。ルコック国際演劇学校卒。国際的な創作活動の他、神奈川県、世田谷区の小中高校、立教大学現代心理学部等でWS、講義を行う。

滝口 健

Takiguchi Ken

シンガポール国立大学博士課程、クアラルンプール・パフォーミングアーツセンター(マレーシア)コンサルタント(国際プログラム開発担当)、劇団ネセサリー・ステージ(シンガポール)運営評議委員。元国際交流基金クアラルンプール日本文化センター副所長。

早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点

早稲田大学演劇博物館では、21世紀COEプログラム(2002～6年度)、グローバルCOEプログラム(2007年度～)を通じて、さらに多くの人的、知的、物質的な研究資源を蓄積してきました。このたび、文部科学大臣より共同利用・共同研究拠点として認定されたことを受けて、その資源をより広く学内外に公開し、学外研究者・研究機関と連携しながら、それを利用した二次的研究を展開することを目的として、演劇映像学連携研究拠点を発足させ、新たな研究事業を行うものです。

この「セミナー+ワークショップ」は、演劇映像学連携研究拠点において藤井慎太郎(早稲田大学文学学術院准教授)が中心となって実施している共同研究「舞台芸術 創造とその環境 日本/世界」の一環として実施されます。

企業組合 演劇デザインギルドについて

演劇ワークショップの企画や進行を担う技術者の集まりです。演劇ワークショップの手法は、民衆演劇や教育演劇、美術、音楽、ダンスなどの方法を組み合わせて構成されており、コミュニケーションの促進や表現力を引き出すだけでなく、身の回りの状況を演劇として表すことで課題を発見して、どうしたら現状を変えられるかいっしょに考える場をつくりだします。

これまで次のような団体の依頼でワークショップを行ってきました。世田谷パブリックシアター、世田谷文化生活情報センター生活工房、全国腎臓病協議会、国際交流基金、アジア文化会館、早稲田大学、成蹊大学、国際基督教大学、和光大学、水俣病公式確認50年事業実行委員会、他

アジア演劇創造研究センター について

アジア演劇創造研究センター(以下センター)は、高い芸術性と強い社会との結びつきを兼ね備えた現代演劇の作品を創造すること、またそれを可能とする環境づくりをめざして2009年4月に活動を開始しました。

センターは〈アジア〉を中心に海外と国内の演劇人の交流の場をもうけながら、それら演劇人と共同して舞台作品を〈創造〉し、同時に世界各国の演劇の理論やメソッド、創作環境や文化政策等について〈研究〉をおこなっていきます。

こうした活動を通じて蓄積される知識や方法を用いながら、各種の講座やワークショップを開催して、日本の現代演劇のための人材育成をめざすとともに、演劇が持つ様々な力や可能性を教育や福祉やまちづくりなどの社会の他領域へと応用し、普及するために活動していきます。

会場 森下スタジオ MORISHITA STUDIO

〒135-0004 東京都江東区森下3-5-6

TEL 03-5624-5951 [開催期間のみ]

地下鉄都営新宿線、都営大江戸線「森下駅」A6出口 徒歩5分

